地域バス交通活性化セミナー

バスで人をつなぐ

ぐるっと生瀬運行協議会　H29・3・7

心は一つ

9つの自治会

高台
生瀬幼稚園

サーパス
サーパス 西宮塩瀬

青葉台

宝生が丘

生瀬

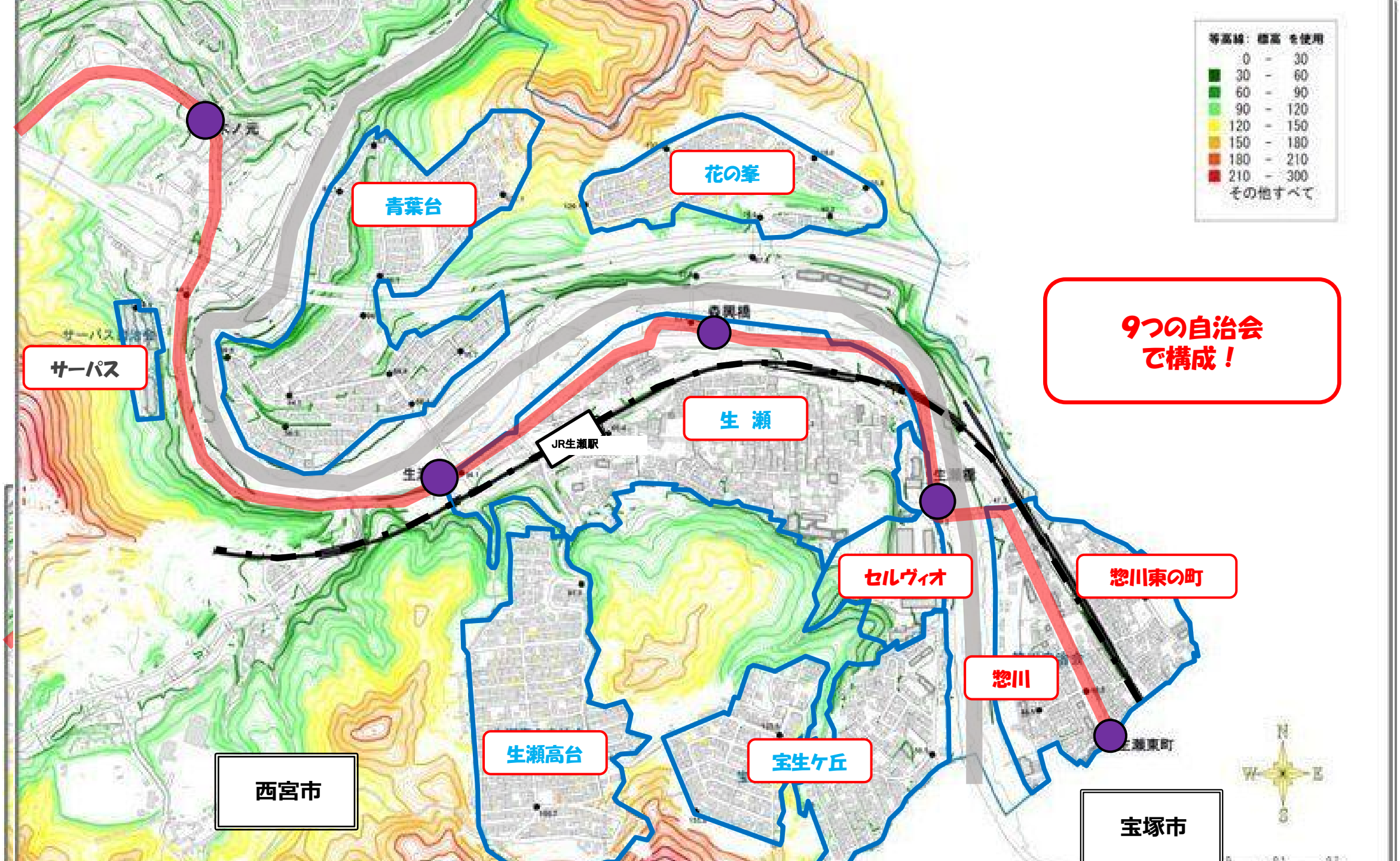
花の峯
花の峯
北長中央病院
シルバーハウス

セルヴィオ

惣川

惣川東

雪の日の青葉台の坂


9つの自治会
で構成！
サーパス
青葉台
花の峯
生　瀬
JR生瀬駅
セルヴィオ
惣川東の町
惣川
生瀬高台
宝生ケ丘
西宮市
宝塚市
等高線：標高 を使用
0 - 30
30 - 60
60 - 90
90 - 120
120 - 150
150 - 180
180 - 210
210 - 300
その他すべて

1．生瀬方式と呼ばれて

①ゼロから出発した先人たちに学んで

②組織の経緯

③住民が主体

④2枚、3枚の粘り腰

⑤受賞して分かった生瀬の特色

2．運行状況

3．主な地域活動

①円滑な運行のための地域活動

②利用促進活動

4．地域活性化に向けて

5．今後に向けて

１．生瀬方式と呼ばれて

①ゼロから出発した先人たちに学んで

〇青葉台の取り組み

・H18・10　　青葉台自治会が市へ要望
・H20・　２　　市がアンケート調査実施
　　９　　自治会内に「青葉台コミュバスを考える会」が発足
・H21・　１　　無償試験運行を開始

〇試験運行（H21・1～H21・4）

・地域からJR生瀬駅まで　　１日３往復
・有志８人が自家用車で無償運行
・71日間で590人（1日平均8．3人）

すべてはここから始まった

②組織の経緯

○諮問会議（H23．10～H25．3　16ケ月間）

・自治会長会連絡協議会から諮問
　「生瀬にふさわしい地域交通の在り方について」

・5自治会から14名の代表が参加

・主な議題（生瀬に実現が可能か、運営主体はNPOでなくてもよいか）

○運行協議会準備会（H25．5～H26．5　13ケ月間）

・本格運行に向けて新組織づくり（老人会、地区社協）

・9自治会と問題を共有するために拡大会議を開催

・主な議題（試験運行の実施、運営、コース、便数、料金、委託業者）

○運行協議会（H26．5～

・理事会と常任理事会の2本立てに組織改編
　＊理事会（議決機関）、常任理事会（執行機関）

・主な議題（会則、運行計画と利用促進、円滑な導入と安定的な運営）

③住民が主体

○企画は行政主導ではなく住民が行う

＊運行計画（ルート、ダイヤ、料金、停留所など）

＊利用促進計画と推進

＊地域説明会、住民の理解、広告依頼

○運営はNPO法人でなく運行協議会で行う

＊９自治会の理解、協力

＊業務はすべてボランティア

○会員、サポーター制に頼らず地域内外の一般住民を対象

○収支１００％を目標とする（公的支援を不足の場合に限る）

○運行業務だけではなく、地域の活性化も目的とする

④2枚、3枚の粘り腰

〇業務は脆弱なボランティアで運営

・組織改編のたびにやめる人が続出

＊諮問会議から関わった人は誰もいなくなった

・会議はたびたび紛糾白熱

＊やめろ、やめるの怒号

・決定事項の積み上げもなし

＊準備会までは前回協議事項の再確認から

・三者間の隙間を埋めてくれたアドバイザー

＊事前事後の調整、個別の対応

〇いかなる危機も留まることなく常に前進

・やめるものあればその都度補充

・小さなことにこだわらない（大同小異）

・これまでかかわった人は全員がよき協力者

⑤受賞して分かったぐるっと生瀬の特色＝生瀬方式

○国土交通大臣賞の受賞理由

地域住民が計画段階から主体的に関わり、有識者・交通事業者・行政等と協働のもとその地域にふさわしい、住民の目線で背丈にあった持続可能なコミュニティバスの運行を目指すとともに、その運行を通じて、魅力的で活力ある地域の形成を目指す

○受賞例

・国土交通大臣賞
（国土交通省　H28・7・29）

・明日の兵庫を創る生活活動賞　　優秀賞
（兵庫県　企画県民部　県民生活課　H28・11・15)

・明日の日本　くらしづくり活動賞　振興奨励賞
（公益財団法人　明日の日本を創る協会　H28・12・3）

・人間サイズの町づくり活動賞　知事賞
（兵庫県　県土整備部　まちづくり局都市政策課　H28・12・19）

＊なぜ私たちがもらえるのかという戸惑いが、全国でも数少ない事例という大きな自信と誇りへと変わっていった＝使命感と責任感

２．予想以上の実績

〇試験運行

・H24．１０　５日間の無料　　（2コース4便）　　720人（1日140人）

・H26．３　　1ケ月（21日）間　（6コース4便）　　866人（1日43人）

・H26．１０　6ケ月（119日）間　（4コース5便）　　7954人（1日67人）

〇本格運行

・H27・１０　　１年間（246日）　（4コース5便）　　20599人（1日84人）

〇分析・考察

・実験ではなく、本格運行への移行が住民の安心信頼につながった

　＊定期や運転免許証などの返納

・バスを中心にしたライフスタイルに移行

　＊買い物、病院などもバスの時間帯に合わせて外出

　＊リピーターだけではなく新しい客層への広がり

・「在る」ことによって隠れたニーズが引き出された

　＊利用してみれば案外便利である

　＊むしろ近距離はマイカーは不便である

　＊友達づくり、生きがいづくりにつながる

３．主な地域活動

①運行を円滑にするための地域活動

〇事務所の開設

・毎週月曜の午前に集会（企画立案、役員の情報交換）

〇利用者に開かれた窓口として

・運行の有無、遅延、忘れ物、苦情には懇切丁寧に対応

＊月に平均して7～8件（8月は14件）

・忘れ物は緊急の場合は自宅まで届けるようにしている。

〇渋滞等による遅延等の場合

・利用者や乗務員の電話を受けて、停留所廻りや張り紙で通知する
または、要所のポイントに立って走路変更の指示を行う

〇凍結等による運休の場合

・基本的には利用者が運行業者への問い合わせとする。地域対応が可能な場合は張り紙等で状況を知らせる。

・状況によってはルートを試走して電話の対応をする。

②利用促進活動

〇会報の発行

・年６回、奇数月に全戸配布

・運行に関する記事だけではなく、地域情報誌を満載

〇 地域説明会の開催

・各自治会を巡回、事業説明や意見や希望を聴取

〇宝塚駅で月一回（月初め）のキャンペーン

・ビラ配布、状況者への声掛け

〇添乗サービス

・利用者間の交流のきっかけづくり、生の声を把握

〇学校園、保育所訪問

・全校集会や卒業式入学式でPR、缶バッジの作成配布

＊保護者への啓発、次世代の育成

・トライやるウィークにおける中学生への理解

〇地域行事における啓発活動

・生瀬地域盆踊り、各自治会夏祭りでの模擬店

・敬老会、文化祭などでPR（替え歌披露）

・ユルキャラ、音頭を募集して広報活動を活発化

〇ニュースリリース

・５大紙朝刊、NHK、ベイコム、その他

〇不動産業者との連携

・時刻表の配布、チラシにぐるっと生瀬の運行掲載依頼

〇バス車内における啓発

・毎日の乗車数と合計数、目標数の掲示

・掲示板による地域情報の広報

４．地域の活性化に向けて

〇地域に認められた存在価値

・自治会単位の支援

＊単独の時刻表、住居図に停留所、協賛金の寄付

・行事ごとに単発でサポーターが出現

・地域のほとんどの住民が生活の足として認知

＊利用者数、一日の平均などが日常の会話

・神社と連携

＊ユルキャラが大晦日のカウントダウン、秋祭りの山車、植樹祭

＊未就園児の保護者が行うハロウィーン行進に参加要請

〇各種団体、関係機関と同様の組織

・運行協議会の代表として各行事に参画

・伝統的な行事の復活支援（出前盆踊り、七夕、餅つきなど）

5. 今後に向けて

①運行計画の見直し

〇現在5便を6便に増やして利便性を高める

〇休日（土曜）の期間限定で試験運行を実施

〇平成30年から5ケ年の運行総合計画を実施（2両で運行）

②バスで生瀬を変える

〇人がつながるバスへ

・外出の機会が増えて地域内に多くの友達ができる

・自治会間がさらに近くなる

〇町が豊かになるバスへ

・登下校中の子どもの安全を守る「子ども110番」の機能をもたせる

・地価の安定による人口の流出入のバランスを図る

・バス事業の参画経験からボランティア活動の輪を広げる

JR生瀬駅前　派出所　生瀬支所に七夕を飾りました

生瀬駅前　交番　生瀬支所前

敬老の集い

利用促進活動

PR用にいろんな演出を

利用促進活動

事務所では　連日模型作り
どるっとちゃん
なまぜ

期限の中で必死で作業を続けました

大晦日のカウントダウン

皇太神社　植樹祭
なまぜ

国土交通大臣賞の栄誉

・明日の兵庫を創る生活活動賞　　優秀賞

明日の日本　くらしづくり活動賞　振興奨励賞

人間サイズの町づくり活動賞　知事賞

3月3日に3万人

■駐車スペース1台あり

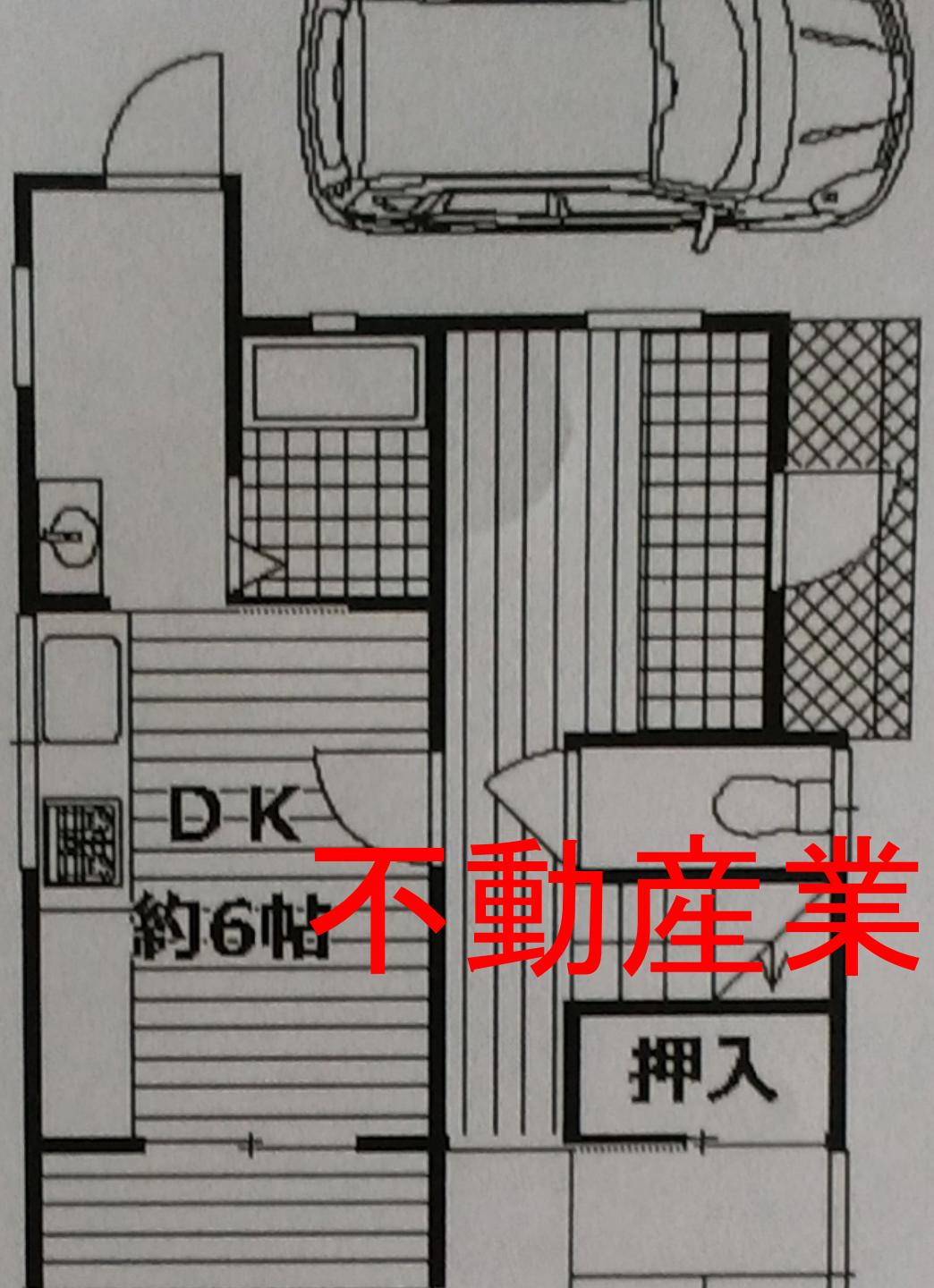
■南向きバルコニー

■全居室6帖以上あり

コミュニティバス

ぐるっと生瀬 運行中！

時刻表がございます。お気軽に
担当者までお問い合わせ下さい。



不動産業者のチラシ

自慢のドライバー
私たちにお任せください

頼みの交通アドバイザー

自慢の広告塔
なまぜ
なまぜ
わたしを　うーんと　売り込んでね